会　議　録

会議の名称	平成２８年度第３回笠間市教育振興基本計画策定委員会　議事録		
開催日時	平成２８年１１月１４日（月）　午後１時３０分～午後３時３０分		
開催場所	笠間市役所 行政棟　２階　庁議室	事　務　局	教育委員会学務課　総務G
会議の公開	■　公開　　□　非公開　　□　一部公開 ＜非公開・一部公開とした場合の理由＞	傍聴者数	０人
出　席　者	出席委員：渡邊洋子委員、志摩邦雄委員、梁瀬浩幸委員、藤岡理香委員、川崎幸良委員、井川省史委員、木村友明委員、内田幸枝委員、安見珠子委員、田村和己委員、大月裕美委員、鷹松丈人委員、小田野恭子委員【１３名】 事務局：８名		
議　　題	平成２８年度第３回笠間市教育振興基本計画策定委員会		

議　事　（審議経過及び発言内容）

【配付資料】
・笠間市教育振興基本計画策定(原案)(資料１)
・平成 28 年度第２回笠間市教育振興基本計画策定委員会における委員からのご意見について(資料２)

１．開会

２．策定委員長あいさつ

３．協議事項

（１）笠間市教育振興基本計画(原案)について

事務局が資料１と資料２に基づいて説明を行った。

【質問・意見等】

委員：29～30 ページの＜具体的な事業＞で、所管課が「子ども福祉課公立認定子ども園」となっている部分があるが、これは他も「〇〇公民館」や「〇〇図書館」と標記されているため、「子ども福祉課公立」を抜いて「認定子ども園」としてよいと思う。

事務局：そのように修正したい。

委員：前回欠席していたので的外れな内容になってしまっていたら恐縮だが、２点お伺いしたい。１点目は全体に関してだが、「今後の方向性」に挙げられている項目数と「主な取組」で挙げられている項目数が一致しない部分があるのはなぜか。また数値目標についても、全てが主な取り組みと１対１で対応しているわけではないので、今後、計画の進捗は数値目標ではかるのか、あるいは別途、「主な取組」にあるそれぞれの具体的な事業の進捗ではかる

のか。２点目は、施策の方針６「図書館活動の推進」についてだが、他と比べてアンケート結果や統計数値の抜粋が多いのはなぜか。

事務局：１点目については、第１回策定委員会でも説明させて頂いたが、今回の教育振興基本計画については、「笠間市教育施策大綱」を基に策定しており、計画の「主な取組」までの部分が大綱と共通している。県の「いばらき教育プラン」も参酌し、「施策の方針」の中のカッコ書きになっているところの 23 項目について数値目標を設定したため、このような形になった(例：「施策の方針１」ならば「(１)就学前の教育の充実」に数値目標を設定してある)。また、計画の数値目標の管理と並行して、事務事業の評価も行っているので、細目についてはそちらで進行管理をしたいと考えている。２点目の図書館の部分についてだが、これまでの市の総合計画においては、図書館は公民館等と共に「生涯学習」の下の階層に含まれていた。ところが今回は、特に図書館活動について力を入れるという方針になったので、一つ階層を上げる形で計画に盛り込まれることになった。ただし、実際の図書館活動を考えると、既存の事業についてだけでは内容が薄くなってしまうため、アンケート結果や統計数値を多く用いた。

委員：２点目は理解したが、例えば 40～41 ページの「(５)時代の要請に応える教育の推進」では、数値目標は「国際交流事業参加者」のみになっている。しかし、ここでは国際交流に関する教育だけではなく、インターネット上のマナーや、ICT 機器を活用した教育についても触れられており、この数値目標では進行管理ができないのではないか。数値目標についての評価の仕方をどこかに記載した方が良い。一般の人が読むと分かりづらい気がする。

事務局：数値目標については改めて内部で再度見直したい。また、注釈についても検討する。

委員：前回、「教育振興事務」という表現が分かりづらいと私の方から指摘し、いくつかは直して頂いていたようだが、41 ページや 45 ページで「振興事務」や「運営事務」が残っているのには何か理由があるのか。

事務局：41 ページの「小学校(中学校)教育振興事務」、45 ページの「学校運営事務」については削除のし忘れであり、削除する。

委員：49 ページの「現況と課題」において、「笠間公民館については、昭和 57 年に建設され老朽化が進んだことから、大規模な改修工事を予定しています。」とあるが、既に工事は始まっており、この計画が策定される頃には工事が終了してしまうのではないか。

事務局：仰る通りである。実はまだ事務局の方でも全てを修正しきれておらず、次の機会までには修正しておきたい。

委員：39 ページの数値目標、「個別の教育指導計画作成率(小中含む)」で、基準値の 44%という数字はどこから出てきたのか。県の作成率を見ると９割を超えていたように思ったが。そもそも、この計画は必要な児童生徒に対して作成するものなので、対象の児童生徒だけではなく、在籍する全ての児童生徒数に対する割合にしてしまうと、おかしくなってしまう。必要がある人に対してどのくらい作成しているか、という数値にしてほしい。また、同じページに「…学童期においては個別の指導計画を作成し活用を図ります。」とあるが、この場合、「学童期」には幼稚園も入るのか。というのは、幼稚園でも個別の指導計画を作成するのだが、この表記では幼稚園も対象になっているかどうかが分からないので、確認をお願いしたい。

　38 ページの「現況と課題」の２つめの○において、「発達障害の問題を抱える児童」という表現があるが、「問題を抱える」というのを削除し、「発達障害のある児童」としてほしい。同じく３つ目の○については、「特別支援教育コーディネーター等との校内での連携」

となっているが、特別支援教育コーディネーターは校内だけでなく関係機関との連携も大切なので、文言を追加し、また一番最後の「個別支援計画」は「個別の支援計画」と修正してほしい。さらに、同ページの「今後の方向性」に「突発的な行動に対しての対応」とあり、これは ADHD(注意欠陥・多動性障害)の子のことを指しているように思われるが、現場にいる人間からすると、現在の発達障害における課題はむしろ LD(学習障害)にシフトしてきていると考えられるので、あえてこのように表現する必要はないと思う。発達障害のある子が全て突発的な行動をし、周りを困らせていると解釈されてしまう恐れもある。どうしても触れたいならば、「学習が困難」とするか、あるいは「合理的な配慮を提供していく」という表現にすると良い。

28 ページの「今後の方向性」の中で、「特別支援学校をはじめ関係機関との連携強化」とあるが、「かさま子育て支援プラン」にもこういった内容が記載されていることもあるので、取り組みとして次の「主な取組」のところに入れてもらえると良い。ただし、この箇所に入れるか、「施策の方針２」の「(４)特別支援教育の充実」の部分に入れるべきか、というのはまた事務局で検討して頂きたいが。特別支援学校はセンター的な役割として特別支援教育の充実を図っており、特に笠間市は２つの特別支援学校があることから、圧倒的に支援数が多い。このようなところは他の近隣自治体(水戸市、石岡市、茨城町、城里町)にはなく、笠間市だけである。特別支援学校をセンター的な機能で活用する、というあたりをどこかに書いて頂けると幸いである。

事務局：28 ページの部分については、先ほど内田委員が言われたような 38 ページとの関係性やバランスも見ながら、担当課にも確認し、精査させて頂きたいと思う。

委員：特別支援に関連して一つお聞きしたい。38 ページで「障がいのある」というところは「障害」の「害」がひらがなになっており、一方で「発達障害」は漢字のままになっている。それぞれ表記はこのままで良いのか。

委員：文部科学省の方で出されるものついては「害」は漢字のままになっているが、今回の計画では笠間市側が配慮して頂いたのだと思う。どのように表記するかについてはいろいろ議論もあるが、このままの表記で良いのではないか。

委員：文科省では基本的に漢字を使っているが、しかしそれをそのままこの計画に載せたときに、いろいろな方がどう思われるか。やわらかな表現の方が良いと個人的には思うが。また、県の個別の支援計画の作成率については、小・中学生は 93.7%、幼稚園は 62.9%、高校生は 15.8%となっている。

事務局：表記の部分については、内部でまた改めて検討したい。

委員：これも表記の問題だが、「一人一人」は「一人ひとり」ではないか。確認をお願いしたい。

委員：文部科学省は「一人一人」で、現場ではよく「一人ひとり」の方を使うことが多いと思うが、意見がある方はいらっしゃるだろうか。

委員：最近は文部科学省も「一人ひとり」と出してくる場合もあるが、県が出している学校教育指導方針では「一人一人」となっている。ただし市で作成する場合には、市のスタンダードに合わせて良いと思う。

事務局：23 ページの「笠間市教育目標」をご覧頂きたい。こちらで「一人一人」となっているため、それに統一をさせて頂いた。

委員：３点お願いがある。１点目は、35 ページの数値目標のところで、「茨城県学力診断のためのテスト(全国との比較)」とあるが、これは県独自のものであり、「全国との比較」はふさわしくない。全国と比較するのであれば、「全国学力・学習状況調査」(全国の小学校６年生、

中学３年生が対象)の結果を使う必要がある。なお、県の学力診断のためのテストを使うのであれば、こちらは点数を算出していないため、正答率と比較するということになる。また２点目は、同じページの数値目標に「英語検定試験の合格者率」があるが、この場合「英語検定試験」は何を指しているのか。「実用英語技能検定」のことだとは思うが、「英語検定試験」だけだと他の試験(TOEIC、TOEFL)と混同される可能性があるので、明確に分かるようにしてもらいたい。３点目は、39 ページで「個別の指導計画」がというところがあったので補足するが、特別支援学級に在籍しているお子さんへの個別の指導計画の作成は義務となっている。そのため、この場合の「個別の指導計画」は特別支援学級以外の通常学級のお子さんに対するものなのかが分からなかった。

事務局：ご指摘の部分については注釈をつけるなどして対応や修正をしたいと思う。

委員：今挙がった 35 ページの英検の合格者率について、「いばらき教育プラン」ではこの目標値は 60%になっていたと思うのだが、どのようであったか。

事務局：ご指摘の通り、「いばらき教育プラン」の数値目標に「英検３級相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合(中学３年生)」とあり、そちらの平成 32 年度の目標値は 60%になっている。

委員：この計画上での合格者率は、市から公費で検定料の補助を受けて受検した子の合格者率ということになるのか。あるいは、各自が払って受検した分も含むのか。

事務局：公費の補助を受けた中で合格した子に限っている。各自で受検した分については把握ができない。

委員：そういうことであるなら、それが分かるような記載の仕方をしてほしい。

委員：48 ページの数値目標に「子ども会加入児童率」があり、基準値が 82%となっているが、実感としてはそこまで高いと思えない。名簿を作成してあっても実際に活動していなかったり、年度の途中で抜ける方もいらっしゃるため、疑問に思うところである。実態を調査するのは大変だと思うので、それを果たして数値目標として設定してしまって良いのか。また、75 ページに数値目標一覧があるものの、最後の位置なので、関心を持っていなかったところに戻ったりするのは手間がかかる。難しいかもしれないが、27 ページの「施策の体系」の右側の部分に記載することはできないか。その方が見直しやすく、また全体を把握しやすいと思う。

事務局：１点目については内部で精査をしたい。また、２点目もご指摘の通りだと思う。内部で検討させて頂きたい。

委員：これから指摘する部分は細かいところなので、委員会終了後に内部で検討して頂いて構わない。まず、８ページの「④生活・学習の状況」において、３行目の「学校で、」が消えているが、「で、」は残した方が良いと思う。

12 ページからの「３ アンケート調査の結果」だが、設問文や選択肢の表現によっては回答にバイアスがかかってしまい、数値に変動が出てくるので、今後アンケート調査を行うときには気をつけてほしい。例えば 16 ページの「③家庭の教育力を高めるために必要な取組」のところで、選択肢に「育児や子どもへの教育・心がまえを保護者が学ぶ機会を設ける」というものがあるが、こういう書き方だと保護者には理解を得にくいと思う。「安心して育児ができる」や「悩みを解消できる」といったような、保護者の心に寄り添ったような言葉で表記していたなら、この選択肢を選んだ保護者もっと多かったのではないか。笠間市は家庭教育学級に非常に力を入れているので、もったいないと思う。アンケート調査票の検討の際に指摘できなかったのが申し訳ないが、今後の課題としてほしい。

19 ページのグラフは、教職員の回答項目の並びが保護者の並びと同じになってしまっている。例えば「県立の医療施設があるなど医療機関の充実」の教職員の回答が 39.0%となっているが、これは本来「笠間市出身の偉人の功績」だったと思う。前回の資料の「笠間市教育振興計画策定のためのアンケート調査結果報告書」の 77 ページにあったグラフが正しいと思われるので、差し替えをお願いしたい。

22 ページの「アンケート調査結果のまとめ」の「学校教育」において、「携帯・インターネットのモラルなどは家庭・地域の教育への期待が大きいが、子どもの携帯・スマートフォン等の使い方については保護者の不安が大きくなっている」とある。しかしここは「大きいが、」という部分と後の文がつながらないと思うので、「大きい。」と一度切って、何か接続詞を入れるか、そのまま「…大きく、子どもの携帯・スマートフォン等…」とつなげてしまってはどうだろうか。

それから、25 ページの１行目、「いじめや暴力行為などの問題行動が大きな社会問題となっていますが、」のところに主語や時期を表す言葉を入れた方が良い。そのままでは雑ぱくな印象を受ける。

26 ページの「２　『郷土を愛する人づくり』」は「…産業などを学ぶこと」であるはずなに「ぶ」が抜けてしまっている。また、絶対というわけではないが、その段落の最後の行、「そのために、郷土教育、市民教育や文化活動を推進します。」の文中に、幼少期から生涯にわたる、というような取り組みの期間や対象を入れることを検討してほしい。

29 ページの「主な取組」の「②豊かな心を育む活動の実践」のところで、「…他人を思いやる心や感性や表現力など豊かな心とすこやかな体の基礎づくりを目指します。」とあり、何となく意味合いは分かるが、「表現力」の辺りに「どうしたいのか、という気持ちを養う」など、一言入れると「豊かな心」につながってくるのかなと思う。

31 ページの「近年、生命を大切にする…」の文の主語は誰になるのか。小中学生、青少年、あるいは我々大人なのか。そしてこの文全体も、将来に対する不安を言っているのか、今の子どもたちのことを言っているのか、もしくは全体としてそうなのかが分かりづらい。表記の仕方が難しいところではあるが、そういったことが明示されていると一般の方が読んでいて分かりやすいと思う。また、同じページの「今後の方向性」の「郷土『笠間市』の歴史・文化、豊かな自然などの良さ」の「の良さ」は入れなくて良いのではないか。「良さ」というものの基準は人によって異なり、どう判断するかが難しいと思うので。

34 ページの「今後の方向性」に「また、『分かる楽しさ』を大切にして…」という表現があるが、「分かる楽しさ」の前の段階には「できる楽しさ(できたという体験)」があるものだと思うので、今後検討していってほしい。「分かる楽しさ」というものをどう評価していくか、あるいはどう実感を持ってもらえるかというのは、工夫が必要なところだと思う。

39 ページの数値目標は、他の委員からも指摘があったように、母数をどう設定しているのかがはっきりしないので明確にしてほしい。

42 ページの「現況と課題」にある「かさまキッズモール」は削除の扱いになっているが、これには何か理由があるのか。具体的なことが示されていて、個人的には良い例だと思っていたのだが。

49 ページの「現況と課題」にある「公民館を利用者の…」のところは「公民館の…」とした方が良いと思う。

51 ページの数値目標、「家庭教育学級数」は基準値が 36 学級なのに対し、目標値が 34 学級になっている。学校数の減少が影響しているのかもしれないが、目標値なのに数が減っ

てしまっているのはなぜか。先ほども言った通り、笠間市は家庭教育学級に力を入れているので、数値目標として挙げるにはふさわしいが、学級数ではその努力が表現できないと思う。家庭教育学級に関する、何か違う数値目標を挙げてみると良いと思う。

55ページの「現況と課題」で、「『笠間歴史フォーラム』」の後の「は盛況であり」が消え、「『笠間歴史フォーラム』についての市民の関心が高まっています。」に修正されている。しかしこの文章だと、笠間城跡よりも「笠間歴史フォーラム」そのものへの市民の関心が高まっている、というような誤解を生む可能性があるので、「は盛況であり、」を残すか、あるいは別の文章を考えてはどうだろうか。次の56ページの数値目標の「歴史、産物等地域資源に係る講座の受講者数(年間)」は、延べ人数なのか、単純な参加者数なのかが分からないので、きちんと明記してほしい。

58ページの数値目標の「スポーツ大会参加者数」は、基準値が331人で目標値が399人に減っているのはなぜか。前のページでスポーツの振興についてこれだけ書いてあるにも関わらず、このような目標値であるとしっくりこない。何の調査に基づいているのかによっても変わると思うので、そこを明確にしてほしい。

66ページの数値目標、「図書館入館者数」の目標値は、５年間の目標値にしてはそこまで基準値と差がないので、入館者数がもう飽和状態に近いのだと思う。できれば、目標値以上に数字は上がらない、と分かるような表記を入れると良いのではないか。68ページの数値目標「図書館資料展示回数」や、74ページにある数値目標「おはなし会・読書フェスティバル参加者数」についても同様である。また、図書館は20～30代の子育て世代も多く来館するため、子育て分野とからめた事業を考えてみてはどうだろうか。少し長くなったが、以上とする。

事務局：今頂いたご意見については持ち帰り、精査したいと思うが、２点ほど補足させて頂きたい。まず、42ページの「かさまキッズモール」がなぜ消えているのかというご質問があったが、これは事業を主催しているのが本市ではなく、JC(青年会議所)であるため、削除させて頂いた。また、58ページの数値目標「スポーツ大会参加者数」については、修正が漏れてしまっており、正しくは「スポーツ教室参加者数」となる。57ページの＜具体的な事業＞にある「各種スポーツ教室開催事業」と対応している。この教室は主にスポーツ少年団(スケートやウォークラリー、水泳等)で行われているが、本市にある少年団のうち、今後アームレスリングがなくなってしまうため、その分の数値を差し引き、300人と設定をさせて頂いた。

委員： 前回の委員会で、アンケートのまとめのところに「インクルーシブ教育」という単語が出てくるのは唐突ではないかという質問をさせて頂いた。そして今回、計画の方を見ると、アンケートのまとめ同様に「インクルーシブ教育」という言葉が入っている箇所がある。国の施策との整合性を図るために入れてあるのだとは思うが、笠間市として「インクルーシブ教育」を進めることをどこかに明記しているのかどうか。何かに明記されていて、教育委員会全体で「『インクルーシブ教育』を進める」ということが共通認識になっているのであれば、使っても全く問題はないと思う。しかしそうでないのなら、「インクルーシブ教育」という単語を使ってしまうと誤解を招く恐れがあると思う。「インクルーシブ教育」についても様々な意見があるので。

事務局：特別支援教育は就学前から学校教育に至るまで連続して必要なものであり、また笠間市教育施策大綱でも「特別支援教育の充実」を施策の方針の一つとして掲げている。そのような中で、39ページに「主な取組」として「③一貫した教育相談・支援体制の整備」を挙

げさせて頂いており、この辺りを踏まえて「インクルーシブ教育の推進」という文言を入れたかった。しかし確かに先ほどもご指摘頂いた通り、分かりやすい解釈等も盛り込んでいきたいと考えているので、再度検討したい。

委員：55 ページの現況と課題で、「指定文化財が保有されていますが、市民が自由に見学する事ができない状況となっています。」との記述があるが、本年度から生涯学習課が中心となって、第１回の文化財の曝涼（虫干し）を行ったことで、市民のみならず、かなりの数の方に足を運んで頂いた。下にある「『笠間歴史フォーラム』は盛況であり、」と合わせて、曝涼の件も入れた方が良いのではないかと思う。

事務局：文化財の公開に関しては、今年実施した結果を受けて、今後どのような方向性にしていくのか、内部で話し合う予定である。その辺りもふまえ、記載の仕方を検討する。

委員：先ほど藤岡委員が言われたことにも繋がるが、数値目標の意味合いや項目立てや設定の仕方については、工夫をしてほしい。注釈を入れるのだとは思うが、数値は一人歩きしてしまいがちなものなので、数字を見ただけでもある程度表現できているようにしてもらいたい。

事務局：どう工夫するか、検討したい。

委員：37 ページの数値目標で、「全国体力・運動能力調査（小学校における全国平均との比較Ａ＋Ｂの割合）」、「全国体力・運動能力調査（中学校における全国平均との比較Ａ＋Ｂの割合）」というものがあるが、一見しただけではこの「Ａ＋Ｂ」の意味が分からないので、一言入れて頂けるとありがたく思う。

委員：全国体力・運動能力調査では、運動に対する達成の度合いによって評価がつき、Ａ評価やＢ評価がついていれば、達成している、あるいはおおむね達成できている、ということを示している。そのためこのような記載の仕方になったのだと思うが、確かに「Ａ＋Ｂ」だけだと分かりづらい。

事務局：ご指摘の通り注釈を加えたい。

委員：34 ページに「AET（英語指導助手）事業」が出てくるが、「AET」についての注釈を追加してほしい。また、33 ページの「今後の方向性」のところで「AET の積極的な活用により、外国語によるコミュニケーション」と表記があるが、市の方で外国語指導助手を総称して「AET」とするのならば、ここは「外国語による」ではなく「英語による」とした方が良いのではないか。他市町村では「ALT（外国語指導助手）」としているところもあるため、その場合は「外国語による」で良いと思うが、笠間市の場合ははっきりと「AET」と打ち出しているので、こちらもはっきりと修正してしまって良いと思う。

事務局：そのように修正したい。

委員：44 ページの「今後の方向性」で、「指導者としての自信と誇りを持ち、指導力を高め合える学校環境づくりに努めます。」という文章があるが、最初に「教員が」や「教員自身が」という言葉を入れた方が、読んでいて分かりやすい。

委員：「指導者」としてしまうと広い範囲になってしまうのでやめた方が良い。学校では、「教師」と言うよりも「教職員」という表記を主に使っている。授業を教える「教員」だけではなく、学校にいる全ての人間が指導にあたる、という意味合いを含んでいるので、このような言葉になる。ただし、この「指導力」というのが授業における指導力を表しているのならば、もう少し限定的な言葉を入れる方がふさわしいと思うが。

事務局：ご指摘の通り修正する。

委員：46 ページの数値目標で、「『こどもを守る 110 番の家』の看板設置数」が挙げられているが、

これは数があっても実際に活用されているかどうかを把握できているのか。私の住んでいるところでも疑問視されている部分である。笠間市の方で看板を設置されている方とコミュニケーションを取っているなど、何か実態を把握できるようになっていれば、指標としては有効だと思うが。指標として入れた意図をどこかに記載してもらえると良い。

事務局：「こどもを守る 110 番の家」については学務課所管の事業であり、生涯学習課が所管する「青少年相談員」とも連携を図りながら進めていることから、この場でどのような対応を取るのか回答するのは難しい。内部で検討させて頂きたい。

委員：31 ページで「心の教室相談員数と市内中学校不登校割合の推移」のグラフがあるが、何のために入っているのかがよく分からなかった。「現況と課題」を見ると、適応指導教室の活用が、不登校の解消に役立っているというような記述があるので、むしろそちらの実績を入れた方が整合性は取れるのではないか。また数値目標もそれに合わせて設定した方が分かりやすいと思う。

事務局：こちらは前回、数値目標を設定した根拠を示してもらいたいというご意見を頂いたため、新たに追加した部分である。しかし先ほどご指摘を頂いた通り、「現況と課題」との整合性を取る必要があるので、内部でも現在検討している。ご了承頂きたい。

委員：53 ページの「現況と課題」に、「各種文化団体は高齢化が進行し、団体数も減少傾向にあり、若い世代が気軽に参加できる文化芸術活動のあり方が求められています。」とある一方で、その下の「主な取組」の「①鑑賞機会の充実」では、「高齢者の市内美術館等への招待により、世代を問わず市民が芸術に触れることのできる機会の提供を推進します」とある。高齢者が招待されることと、幅広い世代へ芸術に触れる機会を提供することとは、一致しないように私には思えたのだが。

事務局： もちろん高齢者だけに提供するということではないので、この辺りは整合性を図りながら文言の整理を行いたい。

委員： 35 ページの「主な取組」の「②主体的に学習に取り組む態度と活用力の育成」で、「アクティブ・ラーニング」という言葉が出てくるが、この説明を入れてもらいたい。どのような「ラーニング」なのか、読んでいて分からない人もいらっしゃるだろう。

事務局： ご指摘の通り修正したい。

４．その他

（１）次回策定委員会の日程について

次回の策定委員会の開催日程は平成 29 年 1 月 31 日(火)を予定し、時間は 15 時 30 分より開始する。場所は今回と同じく庁議室を予定している。正式な通知は後日改めて送付する。なお、今回頂いた意見については、事務局の方でまとめ、改めて各委員へお配りしたいと思う。他の意見や修正等があれば今月中にお知らせ頂きたい。

５．閉会

以上